

高等学校の学習指導

特集

はじめに

今月号の特集「学習指導の充実―高等学校の学習指導」は、国語、数学、理科、商業、保健体育、音楽各教科の実践例を紹介します。執筆者及び実践例は、次のとおりです。

国語

生徒の質問を課題化する試み

―「詩人の生涯」の授業―

福島県立田村高等学校

教諭 勝間田 敏 男

数学

成功感を大切にした学習指導法

福島県立喜多方工業高等学校

教諭 山 田 弘 臣

理科

理科におけるわかる授業の実践

福島県立須賀川高等学校

教諭 佐久間 房 次

商業

習熟度別学習を行って

福島県立田村高等学校

教諭 中 野 益 雄

保健体育

保健学習の「移行措置」を実施して

福島県立磐城女子高等学校

教諭 加 藤 篤 夫

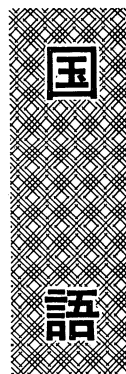
音楽

音楽Ⅱにおける自由演奏の試み

―創造性と自主性を育てる―

福島県立安積高等学校

教諭 佐々木 文 子



一 実践の趣旨

本校で、主として現代国語に課題学習を取り入れて、五年になる。その間生徒も教師も移り、教育的諸条件も変わったが、次のことだけは成果といえると思っている。

- 考えさせる授業が定着したこと
- 生徒全員が授業に参加するようになったこと

だが、まだまだ教師側の工夫の余地は残されていると思うし、生徒の言語活動も活発だとは言えない。私たちは

- 考えて発表する授業
- 説明や意見の書ける授業

- 集団読みの楽しい授業

を最低限実現させたいと望んでいる。そこで、第三学年三クラスにおいて

小説「詩人の生涯」を教材に、生徒の質問を課題化する授業を試みた。すなわち、あくまでも生徒の質問を主体に授業を進めるが、一問一答の安易さを避け、質問を生徒全員が考える課題とする学習である。勿論、生の質問がそのまま課題とならない場合も多い。珍問愚問も出る。どれをどう課題とすることを生徒と一緒に考えることにした。この方法では、授業を成り立たせるために、生徒の発問、話し合い、解答が不可欠となる。もし成功すれば、先の

三目標にいくらかでも迫れるのではないか。これが、実践に入る前の仮説であった。

二 実践内容

(一)対象本校三学年三クラス

(二)教材「詩人の生涯」安部公房

この小説は、昭和二十六年に発表された、シュールレアリスムの手法による寓意小説である。多様なイメージが喚起される作品だけに、今回の授業方法にふさわしいと考える。なお、昭和三十四年朝日放送で放映された同名の台本がある。

(三)学習目標

- ①表現の特異性を味わい、小説の方法への理解と関心を深める。
- ②寓話のおもしろさを味わい、作品の主題を把握する。
- ③主題の現代性、社会性について考える。

(四)指導上留意したこと

授業に入る前に、菊地和章教諭が指導するクラスの第一印象文を読ませてもらった。すると、この作品を理解しているもの二〇%弱、他はお手上げの様子だった。そこで、後者を分析してみると次のことがわかった。

- ①象徴化されたものを日常的概念で理解しようとしている。

例：老婆の正体は羊かなと考えられた。

- ②非現実的事柄を現実にあてはめて解釈しようとしている。